こんにちは！ Doctor

vol. 6

内視鏡による消化器がん治療を主導する内視鏡センターの若きリーダー

「誠心誠意」患者さん第一を信条に、消化器内科部長・内視鏡センター長としてより負担が少ない先進の内視鏡治療を実践しています。

医師への想いを強く抱き工学部から医学部へ

―医学の道を志したきっかけは？

九州・大分に生まれ育ち、幼少のころから父に「将来はプロ野球選手になるか、医者になれ」と言われてきました。父はもともと心臓が悪かったこともあり、医師になって私に診てほしいと常々話していました。ですから、医学の道に進むのは親子の目標だったんです。プロ野球選手の夢は、小学生の時点で諦めました（笑）。

しかし、大学受験では目指した大学の医学部に届かず、第2志望で東京大学の理科Ⅱ類（工学部）へ進むことに。そこでは生体工学を専攻し、工学分野で人体に係わる道を模索しました。ですが、やはり機械と向き合うよりも人と接したい、医師になりたいという想いが勝り、再度受験し直して九州大学医学部に進学。少し回り道をしましたが、晴れて医師となることができました。

―消化器内科医となった理由・いきさつは？

当初はやはり心臓・循環器系を専門にと考えましたが、私が研修医のころには父が心臓手術を終え、かねてからの問題がひと段落したこともあり、研修先の三井記念病院で出会った戸田信夫先生にあこがれて、消化器内科の道へ。戸田先生は内視鏡治療のスペシャリストでERCP（内視鏡的逆行性胆道膵管造影）の先駆的な術者でありながら、他領域にも精通したジェネラリストでもあります。その背中を見て私もこの方のような医師になりたいと思いました。

その後、栃木県立がんセンターで内視鏡の診断学を学び、次いで調布東山病院で内視鏡の臨床技術を磨きました。そして、2010年より当院に入職。現在は消化器内科部長とともに内視鏡センター長を務めています。

―内視鏡センターについて

内視鏡センターは、2014年の当院リニューアルに伴い開局し、最新鋭の内視鏡システム、スコープ、超音波内視鏡を導入しています。患者さんの多くは、当院外来や地域クリニックでの検診において、おなか（胃・大腸・胆膵など）になんらかの不調や異変が疑われる方です。

当センターは迅速な対応をモットーにお待たせする時間を短くできるよう努めており、医師・コメディカルスタッフを拡充して24時間体制を敷き、緊急性が高いと判断した際には来院即日に検査を行うこともあります。

近年は内視鏡機器の性能向上により、これまで見つけづらかった小さな病変も捉えられるようになってきました。内視鏡で治療を行うには早期発見が重要です。胃がんや大腸がんは早期の段階ではほとんど自覚症状がないため、症状のない段階で一度内視鏡検査を受けられることをお勧めします。

「内視鏡は苦しい」というイメージを持たれている方も多いかと思いますが、当センターの内視鏡は非常に小型で性能も高く、高い操作技術・麻酔術を持つ経験豊富なスタッフが対応いたしますので、どうぞ安心してご来院ください。

Triangle

Interview

消化器内科部長・内視鏡センター長

梅木 清孝

Umeki Kiyotaka

早期の胃がん・大腸がんにも積極的に内視鏡手術を実施

―内視鏡治療・手術について

内視鏡手術の導入も積極的に進めています。治療にあたっては消化器内科・外科・病理診断科と密に連携し、内科・外科合同で実施するカンファレンスにて全ての治療結果の検討を行い、内視鏡手術・外科手術の適応も判断しています。

内視鏡手術は1時間ほどで済み、入院も長くて1週間程度。内臓が温存され、早期に社会復帰できるなど、負担の少ない治療を行えることが大きな利点です。胃や大腸のポリープ切除に加えて、以前は開腹手術を行っていた早期がんについても内視鏡切除術（ESD・EMR※）を実施。特にESDでは、2016年度で胃がん74件、大腸がん34件と地域屈指の実績があります。

また、胆管結石に対する内視鏡治療（ERCP）も年々増加しているほか、胃十二指腸から胆嚢・胆管や膵臓を詳細に観察する超音波内視鏡も行っています。今後もさらに体制を拡充し、当センターが地域における内視鏡治療を牽引する存在となれるよう努めてまいります。

―医師としての信条は？

私の座右の銘は「誠心誠意」です。研修医時代の恩師に「目の前の患者さんを自分の父・母と思いなさい」と教わりました。その気持ちを常に忘れず、消化器内科・内視鏡診療の領域に留まらず、あらゆる面で患者さんの心身の健康のためにできることを尽くすよう努力しています。患者さんからすれば、心配性でおせっかいな医者に映るかもしれませんが、この方がもし父だったら、母だったらと考えると、何ごとにも首を突っ込まずにはいられないのです（笑）。

PROFILE

［うめき・きよたか］

1973年7月12日大分生まれ

九州大学卒 2010年入職

日本内科学会総合内科専門医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本肝臓学会専門医、日本超音波医学会専門医、日本大腸肛門病学会会員。消化管、肝臓を中心に診療。食道・胃・大腸ESDを専門的に行う。

※ ESD: 粘膜下層剥離術＝腫瘍をメスで一括で切除する方法
EMR：粘膜切除術＝腫瘍を高周波電流で切除する方法